



会報 No.142 令和3年1月号



一社)八王子市私立保育園協会  
会長 宮崎 豊彦

新年あけましておめでとうございます。会員園の皆様が幸多からんことをお祈り申し上げます。

一昨年12月に中国の武漢でコロナ感染が確認されたと報道があり、翌年1月17日に日本人初のコロナ感染者が確認されました。その後の感染拡大により、昨年はコロナ感染対応に追われた一年でした。志村けんさんや岡江久美子さんといった芸能人のコロナ感染死亡も大きく取り上げられ、とてもショックを受けた方も多くいらっしゃったと思います。子ども達と職員の健康管理と共にコロナ感染対策の為に、各園それぞれにいろいろと対応にご苦労された事と思います。今までに経験した事のない中でコロナ感染拡大が広がり、毎日の消毒等の仕事も増えました。しかし、保育を進めていく中で子ども達の保護育成の為に、各園でそれぞれに工夫しご努力された一年だったと思います。普段の年の行事等と違い、工夫しながら感染予防に努めて縮小して実施したり、また中止にしたりして、子ども達に多くの経験をしてもらいたい事が出来ずに申し訳なく思う一年だったかもしれません。今年は、会員園の皆様方がそれぞれ昨年の経験を活かして、子ども達の為にコロナ禍での保育をより充実していくように努めていくことと思います。冬を迎え、コロナ感染者が増大しており、各園におかれましても十分にご注意していただきたいと思います。これから、どこの保育園でコロナの感染がでてもおかしくない状況にあります。今年もコロナ禍で保育を進めていかなければなりません、子ども達そして職員の為にがんばって行きましょう。

八王子市から、児童福祉施設等職員慰労金給付事業として、保育施設で働く職員に対し一人5万円の慰労金を頂き、ご配慮に大変感謝致しております。石森市長様を始め行政の皆様、市議会議員の皆様には心よりお礼申し上げます。

11月の全体会で報告があった通り、1月に予定しておりました全体会及び新年会は中止とさせていただきます。また、2月26日(金)に全体会をリモートで実施させていただく予定にしております。八王子市私立保育園協会の各部会、委員会活動も十分行えず申し訳なく思いますが、今後リモート等でいろいろと実施できるように努めていきたいと考えております。

7月23日には、東京オリンピックの開会式が予定されております。ワクチンが少しでも早く接種され、安心して東京オリンピックが開催される事を切に願っております。

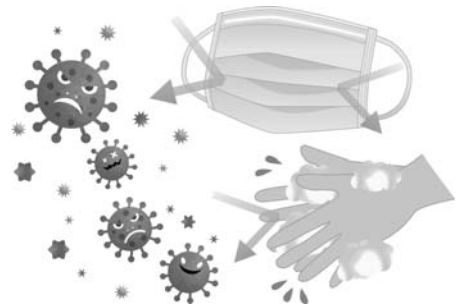
今後共、八王子市私立保育園協会の活動にご支援、ご協力を賜りますと共に、皆様方のご健康とご多幸をご祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

## ◆ 園長研修

令和2年11月26日（木）に、一般社団法人八王子市私立保育園協会の全体会が行われました。初めて会員園全園を対象としたZOOMでの開催。総勢70名の会員が参加されました。

今年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、園長研修として、八王子市のはしもと小児科の橋本政樹先生をお招きし「COVID-19と子ども／子どもの誤嚥・誤飲」というテーマでお話をいただきました。

新型コロナウイルス感染症は、粘膜を通して感染するもので、基本的な生活習慣でかなりの効果が得られる。実際にノロウイルスやノタウイルスより感染のリスクは少なく、今までの経過を見ると、小児が感染しても80%が軽症で済んでいる。死亡率も0.5%となっており、10歳までの死亡例もほとんどない。諸外国と比べて、日本の対応は評価でき、標準的な予防策（三密の回避、手洗いと換気、距離をとること＝ガイドラインやマニュアルを超えないことが重要）



で、かなりの効果が期待できる。また、フェイスシールドは、保育園生活では必要がなく、職員はマスクで充分対応できるとも話されていました。ドアノブなどの消毒は一日一回で充分であるとも。

子どもの時間の流れは大人と違い、子どもの一ヶ月は大人の一年に相当する。子どもは五感を通じて成長するので、日々の生活を大切に。今一度保育とは何か、子どもがメインとなる保育を意識して実践して欲しい。またゼロリスクはありえず、感染が怖いから行事を行わないということではなく、子どもたちにとって今何が必要かを判断して保育を行って欲しいというお話がありました。

子どもの誤嚥・誤飲については、セーフキッズジャパンのホームページが参考になる。万が一誤嚥・誤飲があった場合には、液体は吐かせない、固体は吐かせるということを意識し、国のガイドラインを把握した上で対応がポイントであるという内容でした。

研修当日、橋本先生がおっしゃっていた「この感染症が落ち着くまで3年ほどかかるので、私たちに大切なのは、正確な情報を取得し保護者にしっかりと伝え続けること。」という言葉が印象的でした。

（園長研修委員会）

# 保健衛生研究委員会 活動の報告

令和2年度は当初から新型コロナウイルス感染拡大と、これに伴う緊急事態宣言の発出が行われ、保健衛生研究委員会の活動もなかなか始動できない状態でした。集合研修が難しくなっていく中、11月26日の協会全体会園長研修会にて、八王子市医師会小児科担当理事である、はしもと小児科橋本政樹院長に、「Covid19と子ども」「子どもの誤嚥・誤飲」というタイムリーなテーマについてWEB上で講演していただくことができました。この内容を保健衛生研修会として12月2日、4日、7日、のZOOM配信、9日～25日のYouTube配信を行い、合計延べ320台アクセスがあり多くの会員園職員の皆様に視聴していただきました。今後八王子の保育園児たちのために大いに役立つ事と期待しています。

## 「Covid19と子ども」

病原体とは何か、ウイルスと人類の歴史からお話しいただき、11月末時点で判明していた新型コロナウイルスについての最新の知見をお話しいただきました。

### 概要

新型コロナウイルス（COVID19またはSERS-CoV2）は、飛沫と接触が主な感染経路で、マスクの着用と距離を保つこと、目鼻口の粘膜から侵入するので、手指衛生を保つ事でおおかた感染を防げる。臨床症状は、発熱・咳・嘔吐下痢腹痛・味覚障害・嗅覚障害があり、鼻水がない。成人の8割は軽症のまま治癒、残り2割が10日後までに増悪していき、5%が重症化する。ウイルスの出現は症状出現の2～4日前と考えられ、症状出現前の感染が半数弱と考えられる。（講演時点）。

年齢や人種により感染、重症化のリスクが違い、殊に10歳未満の小児では、感染数が少なく、講演時点では死亡例はない。これはACE2というウイルス接着受容体が小児ではあまり発現していないためと説明されている。（家族間などで大量に浴びれば感染の可能性はある）

基本再生産数が1.4～2.5と考えられ、インフルエ

ンザよりやや少ない。致死率はSERSや鳥インフルエンザよりはるかに低い。麻疹と同程度。小児にとって殺人的なウイルスとは言えない。保育園では感染力の強いノロウイルスを流行させない衛生管理ができていのであるから、同じ姿勢で臨めば十分に対応できる。

予防の基本は1、手指の衛生（手洗いor消毒）  
2、咳エチケット 3、定期的な換気 4、人と人との距離をとる 5、体調不良の時は登園・出勤しないである。

具体的には、厚労省「保育所における感染症対策ガイドライン2018年改訂版」全国保育園保健師看護師連絡会「保育園における新型コロナウイルス感染症対応ガイドブック第2版」日本小児感染症学会「保育園における新型コロナウイルス感染症に関する手引き」等の内容を参考に衛生管理や運営を行ってほしい。

人間は生命を保持するため、ネガティブな情報を優先する特性がある。SNSのデマに惑わされず、マスメディアの情報も慎重に受け止めてほしい。勧告やガイドライン以上に気を利かせた感染対策はいろいろな。私たちにとって怖いのはCOVID19以上に医療の崩壊である。

## 「子どもの誤嚥・誤飲」

事故防止と事故発生時の対応をお話しいただきました。「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年厚生労働省）参照

講演の終わりにいただいた「保育園では、感染対策事故対策を重んじるあまりに、大切なものを見失わないように。保育とは何かという事を軸に、それは許容できるものか、そうではないのかを考えていく事が重要だと思います。」というお言葉は、私たち保育者へのエールに聞こえました。

（南大沢・鳥海）

# シリーズ 私の保育園

## 長房みなみ保育園

園長 落合 聡

長房南団地内にありました長房南保育園が立て壊しのために長房東団地の側で運営することとなり、民設民営で社会福祉法人花窓堂が運営することになりました。法人名所である由木を入れるか迷いました。東に移動になるのに南なのかと疑問に思われますが、既存の園児たちをそのまま保育するにあたり、名前の変更はどうかと思いましたが漢字を平仮名に変える事にしました。令和2年4月1日より、名称を社会福祉法人花窓堂長房みなみ保育園で運営することとなりました。東京都と定期借地権設定契約書を2019年6月より2071年までの土地賃貸借契約を結びました。土地1,500㎡、賃料年額1,927,800で年間4回払いです。定員80名 0歳6名、1歳14人、2歳15名、3歳15名、4歳5歳30名です。

目の前には、八王子市長房地区まちづくりプロジェクトでスーパーアルプス、商業施設とカインズホームセンターが建設されています。2021年4月オープンですから、急ピッチで工事が行われています。コピオ長房と言うそうです。買い物楽になればいいと思っています。

園庭には、既存の大きな桜の木があり園のシンボルになっています。でも樹木診断士によりますと桜



の木は老樹齢になっており、あと数年と言われてしまいました残念です。その周りには数種類のハーブを植え、湘南ゴールド（みかん）ブルーベリーゾーンも作ってあります。まだ植えたばかりなので昨年はたいした収穫はありませんでしたが子どもたちが園庭でハーブを摘みブルーベリーを食べて緑の中を冒険するそんな楽しみな園庭づくりを目指しています。園舎は、鉄骨構造で白を基本におしゃれにしたつもりです。木をたくさん使い、木のぬくもりを感じられたらと思っています。本来ならば、携わった市役所職員の方々や保育園関係者の方々にお披露目をするべきであるのに、今年度はコロナ禍で出来なくなってしまいとても残念です。様々な行事が縮小、三密を避け、消毒、検温と大変な一年になりましたが、子ども達は日々成長をしています、その時々喜び、感動や悲しみを沢山経験してほしいものです。暫らくはコロナに注意をしていくしかないのでしょうか？人が歩けば道になる、一步一步道を作りたいと思います。

前法人の理事長・園長・先生方、引継ぎ研修を快く引き入れ下さって有難うございます。

まだまだ、始まったばかりの長房みなみ保育園です、行政皆様、保育園関係者の皆様、地域の皆様のご支援、ご鞭撻を宜しく申し上げます。



## 編集後記

令和3年の新年早々に緊急事態宣言が発令されました。新しい生活様式の中、私たちもCOVID-19に対して様々な方法を取りながら保育にあたっている毎日です。さてさて、空を見上げてみてください。いつもと変わらない青く澄んだ大空が広がっています。太陽の光を浴びながら子ども達はいつもと変わらずに遊んでいます。子ども達の輝く瞳には楽しい未来だけを映して欲しいですね。そのためには自己肯定感を持てる、自分を大切に出来ること、自分を愛することが必要です。沢山の様々な経験、体験をこのコロナの中で出来ることをしていきたいですね。新年度に向けて脱コロナを願います。 (野上)